

御言葉の適用力を 身に着けよう!!

クリスチャンの信仰の成長と成熟のために

アウトライン

- I. ベクトルの違いを踏まえよう
- II. 「律法主義」とキリストの律法
- III. 悔い改め・救いと成長の大原則
- IV. まとめと適用

御言葉に打ち砕かれつつ

歩む聖化の道





Ⅰ. ベクトルの違いを踏まえよう

ネゲブの荒野

ディスペンセーションの本質を押さえよう

- 神と人との契約が時代を区分
…7つの時代・八つの契約
- 最も重要なのは、二つの時代
→ **律法時代** と **教会時代**
- **律法時代** と **教会時代**
→ 二つの違いを理解しているか？



二つの時代の大きな違い

	律法時代	教会時代
従うべき法	律法	キリストの律法
法の目的	キリストに導く	キリストに従う
ベクトル 方向性	集まる 世から栄光の宿る神殿へ	出て行く 栄光を宿して世に派遣

二つの時代のベクトルの違い

律法時代

集まる

モーセはイスラエルの全会衆を**集めて**、彼らに言った。
「これは、【主】が行えと命じられたことである。出35:1 」

教会時代

出て行く

「ですから、あなたがたは**行って**、あらゆる国の人々を弟子と
しなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、
わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように
教えなさい。マタイ28:19～20」

二つの時代のベクトルの違い

律法時代

神の**栄光**の宿る場に 世から集められる

「その場所(聖所)でわたしはイスラエルの子らと会う。そこは、わたしの**栄光**によって聖なるものとされる。出 29:43」

教会時代

神の**栄光**をもって 世に出て行く

「神は、あらかじめ定めた人たちをさらに召し、召した人たちをさらに義と認め、義と認めた人たちにはさらに**栄光**をお与えになりました。ロマ 8:30」

最初に栄光が与えられている

二つの時代のベクトルの違い

律法時代

集って 世からきよめられる

「この日は、あなたがたをきよめようと、あなたがたのために宥めが行われるからである。あなたがたは【主】の前ですべての罪からきよくなる。レビ 16:30」

教会時代

きよめられて 世に出て行く

「それができたのなら、礼拝する人たちは一度できよめられて、もはや罪を意識することがなくなるので、いけにえを献げることは終わったはずです。ヘブル 10:2」

最初にきよめられている

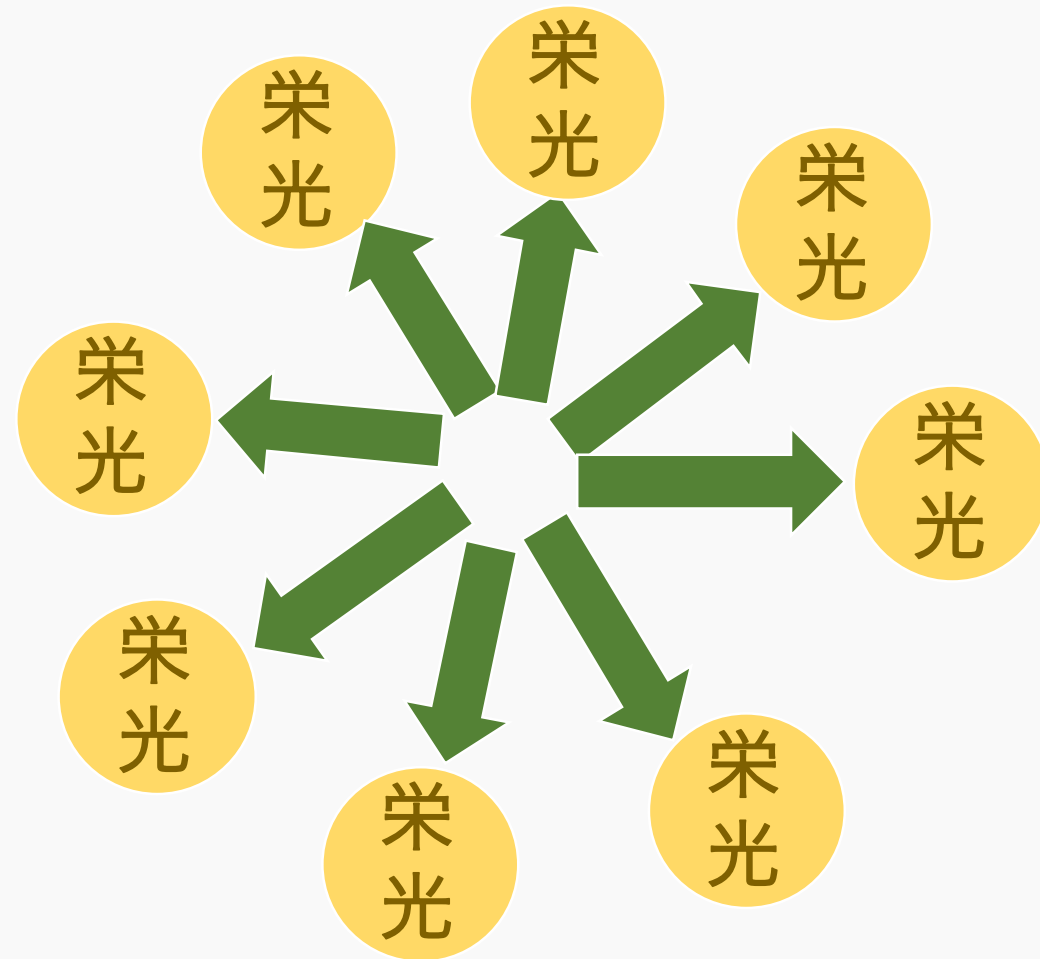
二つの時代のベクトルの違い

律法時代

集まる

教会時代

出て行く



時代への適用を間違うと…

■ 律法時代、異邦人・異教徒から離れるよう命じられた。
「この地の民、異国人の女たちから離れなさい。エズ10:11」

■ 教会時代に実行したら…？

➡ 教会にこもってしまって、伝道ができない!!

例) 救助隊が、内輪の世話に明け暮れてたら？

未信者の救いが第一!! 福音宣教が第一!!

教会が内輪の世話に労力を取られたら本末転倒

世に遣わされていていける 根拠を確認しよう!!

「私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷になりました。ユダヤ人にはユダヤ人のように…、弱い人たちには、弱い者に…。Ⅰコリ9:19～」

- 異なる価値観の人々と関係を持ち、仕え、福音を伝えたパウロ。
- 主イエスは罪人と交わっても平気。もともと、きよい方だから。
- クリスチャンには聖霊が内住され、きよめられている**ので、罪人の中に、世に、遣わされていくことができる。

クリスチャンは、最初に栄光が与えられ、きよめられている

使徒たちに学ぶ、教会時代の適用

■ 教会が直面した、やもめの配給を巡る問題(使徒6章)

使徒が御言葉の奉仕に専念するため、奉仕者を選出。

→ **福音宣教の使命**が内部の問題で妨げられないように!!

■ 奉仕者たち(ステパノやピリポ)も、**福音宣教**に注力

→ 奉仕者であっても、第一の使命は**福音宣教**

福音宣教の使命に注力!! 結果として内部の問題も解決!!

間違いやすい例 マルタとマリア どんな時だった？

■ もてなしに忙しくしていたマルタと、
イエスの話に聞き入っていたマリア。(ルカ10:38～)
「必要なことは一つだけ。マリアはその良いほうを選んだ」

■ 十字架の受難が目前。主イエスの話に注力するのが第一。

■ もちろん、御言葉が第一なのは、今も変わらないが、
御言葉だけ学んでいればいい？！ ➡**時代の適用の間違い**



Ⅱ. 「律法主義」とキリストの律法

「律法主義」という言葉について

■「律法主義」という言葉の意味は？

①一般的な意味 …「ねばならない」が強すぎる様子

②よくある理解 …救いは行いによる。

③本来の意味 …「形式にこだわるあまり、
結果的に神の律法に反してしまうこと(中川)」

■神の律法は、当然、守らねばならないこと。

律法も恵み。律法時代も、恵みと信仰による救いの原則は不変。

「律法主義」という言葉について

- 「律法主義」という言葉は、聖書にはない。➡神学用語
- 律法の遵守は、主の命令!! 律法は正しい!!
(律法時代は律法、教会時代はキリストの律法)
 - ➡律法時代、キリストは誰よりも厳格に律法を遵守。
- パリサイ人の問題は、律法に付け加えた膨大な“口伝律法”
 - ➡問題の根っこは、律法の解釈と適用の違い
 - ➡正しく指摘されたのが、主イエス(山上の説教)

問題の本質は、聖書の解釈と適用の違い!!

教会時代の律法主義

異邦人の救いに「律法」は必要？

■エルサレム会議の結論 使徒15:28～29

「聖霊と私たちは、次の必要なことのほかには、あなたがたに、それ以上のどんな重荷も負わせないことを決めました。

すなわち、偶像に供えたものと、血と、絞め殺したものと、淫らな行いを避けることです。」

■異邦人信者に求められたのは、ユダヤ人信者への最低限の配慮。

➡律法の遵守は不要。ユダヤ人が守るのは個々の自由

キリストの律法

- パウロは、モーセの律法からは自由。
遵守する義務はないが、自発的に守っていた。
→ 第一の理由は、同胞のユダヤ人を救いに導くため

■パウロが遵守していたのは、**キリストの律法**

「私自身は神の律法を持たない者ではなく、
キリストの律法を守る者です(1 コリ 9:21)」

キリストの律法の成就のために

「兄弟たち。もしだれかが何かの**過ち**に陥っていることが分かったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も**誘惑**に陥らないように気をつけなさい。互いの**重荷**を負い合いなさい。そうすれば、**キリストの律法**を成就することになります。
ガラテヤ6:1～2」

■「互いの**重荷**を負い合う」…柔和な心で**過ち**を正し、
自分も**誘惑**に気をつける

キリストの律法を歩む者

「しかし、**御霊**の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものに反対する**律法**はありません。

キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、情欲や欲望とともに十字架につけたのです。

私たちは、**御霊**によって生きているのなら、**御霊**によって進もうではありませんか。ガラテヤ5:22～25」

■内住される**聖霊**の助けによって、**キリストの律法**を歩む。

キリストの律法に基づく教会時代の歩み方

- ①内住される**聖霊**の助けが必須 …信仰による義認
- ②互いの重荷を負い合う …教会につらなる聖化
→ 柔らかな心で過ちを正し、誘惑に気をつける

「キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、情欲や欲望とともに十字架につけたのです。

私たちは、**御霊**によって生きているのなら、**御霊**によって進もうではありませんか。うぬぼれて、互いに挑み合ったり、ねたみ合ったりしないようにしましょう。ガラ5:24～26」

キリストの律法に従う者は 御霊の実を結ぶ

■ガラテヤ5:19～23

肉のわざは明らかです。すなわち、淫らな行い、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔、遊興、そういった類のものです。以前にも言ったように、今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。このようなことをしている者たちは神の国を相続できません。

しかし、**御霊の実**は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものに反対する**律法**はありません。



III. 悔い改め・救いと成長の大原則

■主イエスのたとえ話の難しさ

➡ベルゼブル論争後、弟子たちに向けて語られた解説がないと理解できない。イエスの解説が重要!!

■たとえ話の中心のテーマは？

➡大事ななのは話の**カギ**。話の骨格を捉えよう

➡細部にこだわると、主の意図から外れてしまう
書かれてないことを勝手に読み込まない!!

間違いやすい代表例

たとえ話の解釈の原則

例) 放蕩息子のたとえ話 ルカ15:11～32

- カギは、
- ① 弟息子が悔い改めて立ち返った
 - ② 父が、弟息子の帰還を喜び、祝った。
 - ③ 弟を嫉んだ兄息子を、父が諭した。

テーマ → 罪人の悔い改めを主は喜ばれる

読み込みすぎ

■ ある教師の適用 …「父のように好きにさせるべき」?!

➡ テーマから外れた、語られていないこと!!

間違いやすい代表例

出来事の意味をどうとるか？

例) 宣教途上で脱落したマルコを同行すべきか(使15:37)

パウロとバルナバの激しい議論

➡後にパウロに同労者と呼ばれたマルコ(ピレ1:24)

■ある教師との議論 ➡マルコは悔い改めたのか？

「マルコは悔い改めたなんて、書いてない」と言いつつ、

「マルコは行きますと言っただろう」と強調する矛盾

出来事の意味をどうとるか？

原則を確認しよう!!

■ 信仰の道を歩み続けるために必須なのが、**悔い改め**。

「もし私たちが**自分の罪を告白するなら**、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。 | ヨハネ1:9」

■ 罪も過ちも失敗も、**悔い改めて**赦され、次に進める。

マルコも悔い改めて、パウロと和解に至ったのだろう。

原則を確認しよう!!

悔い改めは行いを求める

■「悔い改めの**実**を結びなさい。マタイ3:8」

「悔い改めて神に立ち返り、
悔い改めにふさわしい**行い**をするように。使徒26:30」

■聖書は常に、**言葉と行い**の一致を求める。

信仰の人である聖徒たちは、例外なく行動の人。

■口で悔い改めて謝罪しても、**実**を結ばなければ…

➡パウロとバルナバの認識の相違。立場の違いも。

➡パウロは後に、マルコの**行い**を確認し、受容

原則を確認しよう!!

行いの実の大切さ

■ イエスを三度も拒絶し、泣いたペテロ。

主イエスに三度問われ、和解。指導者の使命を託された。

■ ペテロの謝罪の言葉はない。

が、**行い**において、明確に悔い改めの**実**を結んだ。

➡ ペンテコステに、人々に悔い改めを迫り、
迫害に遭いながらも、福音を宣べ伝え続けた。

- 人は、**悔い改めて**、福音を信じて救われる。
 - 信仰者も罪を犯すが、**悔い改めて**赦され、成長する。
 - **悔い改め**とは、誤った道から神の方に立ち返ること。
 - ➡ **方向性が大切。正しい方向を見極め、歩む。**
- 救いと信仰の成長においても。聖書解釈も。



IV. まとめと適用 御言葉に打ち砕かれつつ歩む聖化の道

信仰の成長

御言葉は、私たちに成長を促す

「あなたがたは、年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神が告げたことばの初歩を、もう一度だれかに教えてもらう必要があります。あなたがたは**固い食物**ではなく、乳が必要になっています。

乳を飲んでいる者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。固い食物は、**善と悪を見分ける感覚**を経験によって訓練された大人のものです。ヘブル5:12～14」

固い食物を食べられる → 御言葉の正しい適用力

「乳を飲んでいる者はみな、**義の教えに通じて**はいません。幼子なのです。固い食物は、**善と悪を見分ける感覚を経験**によって訓練された大人のものです。ヘブル5:12～14」

- ① **義の教え(キリストの律法)**に通じている
- ② 教えに基づき、**善と悪を見分ける感覚**を持っている
- ③ 見分ける感覚を、**経験によって訓練**されている

…使徒から見れば、今の時代の私たちは幼子の集団だろう

信仰の成長

信仰の成熟を目指して進もう

「ですから私たちは、キリストについての初歩の教えを後にして、成熟を目指して進もうではありませんか。死んだ行いからの回心、神に対する信仰、きよめの洗いについての教えと手を置く儀式、死者の復活と永遠のさばきなど、基礎的なこと*をもう一度やり直したりしないようにしましょう。

神が許されるなら*、先に進みましょう。ヘブル6:1～3」

*「基礎的なこと」を自分の口で説明できない人は、未熟な幼子

*試練としての停滞なら忍耐すべき。先に進むには成長が必須。

信仰の成長

成長の拒絶がもたらす末路

「一度光に照らされ、天からの賜物を味わい、聖霊にあずかる者となって、神のすばらしいみことばと、来たるべき世の力を味わったうえで、墮落してしまうなら、そういう人たちをもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。彼らは、自分で神の子をもう一度十字架にかけて、さらしものにする者たちだからです。

ヘブル6:4～6」

■ 墮落者の代表は、裏切り者の使徒ユダ。

■ 父なる神の愛を受けた子(真の信者)は、自らの成長を望む。

➡ 真理の知識を得ながら、成長を拒む者は、主を拒んでいる。

御言葉は、私たちを刺し貫く

「神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、**心の思いやはかりごとを見分ける**ことができます。

神の御前にあらわでない被造物はありません。**神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています**。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。ヘブル4:12～13」

- 聖書の学びを深めて行けば、心の奥底まで暴き出されていく。
 - ➡ 見たくない自分の罪を突きつけられる。

御言葉は、心の秘密をあらわにする

「しかし、皆が**預言***をするなら、信じていない人や初心の人が入って来たとき、その人は皆に誤りを指摘され、皆に問いただされ、**心の秘密**があらわにされます。こうして、「神が確かにあなたがたの中におられる」と言い、ひれ伏して神を拝むでしょう。
Ⅰ コリ 14:24～25」

■今の時代には、完成された**預言**が、**聖書***

■聖書を学び、分かち合う → **心の秘密**があらわにされていく

御言葉が暴く 隠されていた心の秘密

■ 聖書を正しく学び、分かち合っていくほど、
否応なしに、隠れていた自分の思いや、心の秘密が暴かれる。

例) 自分の性質、家族との関係性等、身近で深い問題が多い。

■ どうしようもないから、隠して、見ないようにしていたもの。
私たちは、本能的に無視し、ごまかし、言い繕おうとする。

➡ 教会や指導者、他者への批判にすり替える人も少なくない

真の課題を突きつけられてからが、聖書の学びの正念場!!

拒む者は、主を拒んでいる

「Ⅰテサ4:8 ですから、**この警告***を拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたにご自分の**聖霊**を与えてくださる神を拒むのです」

***不義に対する神の罰**

■拒み、逃げ続けていると、最後には、かたくなにされてしまう。

➡かたくななイスラエルは、国の滅亡を招いた

■真の課題と向き合えず、教会を去ってしまう人は少なくない。

➡警鐘を与える**聖霊**を拒んでしまうことに!!

種を蒔けば、刈り取りもする

「ガラ 6:7 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、**刈り取り**もすることになります」

- 主からは逃げられない。最後はきっちり**刈り取り**をさせられる。
 - ➡ 暴かれた心の課題への対応も、罪の悔い改めと同じ。
罪を認める。悔い改める。示されたチャレンジを実行する。
- 拒絶したまま、人生を終えてしまうなら…、本当に信じてた？
信仰者には、刈り取りもきっちりある。ないことが恐ろしい。

主は、私たちを砕く方

「では、『家を建てる者たちが捨てた**石**、それが**要の石**となった』と書いてあるのは、どういうことなのでしょうか。だれでも**この石**の上に落ちれば、粉々に砕かれ、また**この石**が人の上に落ちれば、その人を押しつぶします。ルカ20:18～19」

■「**石 = 主イエス**」と対峙すれば、誰もが打ち砕かれる。

➡打ち砕かれ、心の貧しさを味わわされた者が、幸い。

「【主】は心の打ち砕かれた者の近くにおられ
霊の砕かれた者を救われる。詩 34:18」

主の恵みは、弱さの内に 砕かれた心に

「しかし主は、「わたしの**恵み**はあなたに十分である。わたしの**力**は**弱さ**のうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの**力**が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の**弱さ**を誇りましょう。ですから私は、キリストのゆえに、**弱さ**、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいます。というのは、私が**弱い**ときにこそ、私は**強い**からです。Ⅱコリ12:9～10」

■ 弱さのうちに、主の恵みは完全に現れる。

打ち砕かれた心の隅々にまで、主の恵みは染み渡る。

★ 砕かれることを恐れるな ★

■ 聖書の学びを深めるほどに、暴かれる心の秘密がある。

➡ 悔い改めを拒むのは、エゴ。何を恐れ、隠している？

➡ 成長を拒み続けるなら、信仰そのものが問われる事態に

■ きっちり苦しみ、がっつり砕かれて信じた人は、その後が違ふ。
打ち砕かれてきた人ほど弱さを知り、信仰の強さを持っている。

■ 砕かれることを恐れるな。どんなに砕かれてもなくならない、
むしろ砕かれるほどに際立つのが、信仰だ。

心の貧しさを思い知らされて知る 幸い

■ 幸い章句 マタイ5:3～12

「心の貧しい者は幸いです。

天の御国はその人たちのものだからです。

悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるからです。

柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです。

義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるからです。

あわれみ深い者は幸いです。

その人たちはあわれみを受けるからです。

心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るからです。

心の貧しさを思い知らされて知る 幸い

■ 幸い章句 マタイ5:9～12

平和をつくる者は幸いです。

その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。

義のために迫害されている者は幸いです。

天の御国はその人たちのものだからです。

わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。

喜びなさい。大いに喜びなさい。

天においてあなたがたの報いは大きいのですから。

てん　とう　わたし　つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください。

わたし　かみ　みこ　しゅ
私たちは、神の御子、主イエス・キリストが、

わたし　つみ　あがな　じゅうじか　し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか　ほうむ
②墓に葬られ、

みっかめ　ふっかつ　しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。

みことば　わたし　こころ　さ　つらぬ　こころ　ひみつ　あば　だ
御言葉は、私の心を刺し貫き、心の秘密を暴き出します。

わたし　しゅ　まえ　う　くだ
私は、ただ主の前にへりくだり、打ち砕かれるしかありません。

しゅ　くだ　たましい　あなど　あわ　ひ
主は砕かれた魂を侮られず、憐れみ、引きあげてくださいます。

わたし　みたま　み　ふくいんせんきょう　つか　つづ
私は御霊によって満たされ、福音宣教に遣わされ続けていきます。

しゅ　な　いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」